

## 魅力あるまちづくり若者会議（第3回）会議録

日 時 平成26年9月18日（木）午後6時30分  
場 所 グループホーム青りんご 会議室  
参加者 コーディネーター 東京成徳大学 三枝准教授  
東京成徳大学 学生2人  
会員 7人参加  
主催者 市長 政策情報課長 事務局担当2人

### 1 開会 事務局

・開会あいさつ

### 2 「学生が見た中野市について」

コーディネーター

今日は私のゼミ生と、10月に開催される桐友祭という学園祭で、信州中野の農産物を販売する企画があり、その主要メンバーである2年生の学生を連れてきた。

この若者会議で、これから色々なことをプランニングしていく上で、中野市に来た東京の若者が、そこで感じたことを一回インプットしていただき、それを皆の中で咀嚼し、発展させて行ければよいと思う。

学生

昨日、中野市に来て自分達がこれまでに体験したことを、一通り先に報告します。

替佐駅に迎えに来て貰い、まず涌井のそば屋でソバと魚のから揚げを食べ、その後、農業体験をする農家に伺って、薪割り、草刈りなどをして、ぼたんこしょうを使った夕食をいただき、そのお宅に宿泊した。

翌朝、朝食の前に、また薪割りを少しして、迎えが来るまでの間に山の方を散策した後、豊田の道の駅でどんなものがどういう値段で売られているかを見学して、近くの農産物加工施設へ行き、焼きたてのりんごパイを試食させてもらった。その後、唱歌「故郷」の地ということで、ふるさと橋の鉄琴を体験し、橋の下の遊歩道を散策した後、高野辰之記念館を外から見学した。

移動中の車内から果樹園を見ながら移動し、一本木公園、陣屋県庁記念館で中野市の歴史を勉強したあと昼食をとり、キノコ工場で生産者の話を聞き、今晚宿泊する、ぼんぼこの湯ログユテージに立ち寄ってから、この会場に来た。

学生

来る前に中野市のパンフレットを見て、山、森、川がある田舎というイメージをもって

いたが、実際中野市に来てみて、事前に感じたイメージと同じであった。

1日目、農業体験をやった中で、一番印象的であったのは薪割り。都心は雪が少なく、暖房はエアコンや床暖房が多い。雪の多いこの地域でも、薪で暖を取る家は少ないと聞いているが、お世話になった松野さんの家では薪で暖を取っている。薪も購入するのではなく、山から木を伐りだし、それを乾燥して使っている。

その作業を体験できたことが良かったし、薪がきれいに割れた時は気持ちよく楽しかった。

2日目は、ふるさと橋の鉄琴を叩き、そこから見える風景を基に「故郷」が書かれたということを感じることができた。

## 学生

私も来る前は、「何もないところかな？」と正直思っていた。

中野市に到着して、最初に驚いたことは、替佐駅を降りるとき、東京には必ずあるスカの自動改札がないこと。東京二十三区内にいと、自転車で回れる範囲に、食事ができる店やスーパーが必ずあるが、駅前の地図を見たらこの辺りはそうでもなく、やはり田舎なのだと思い、漠然とした良い所と感じた。

松野さんのお宅でご馳走になった時、肉は出ず、野菜料理がメインであったが、ボリュームもあり、ほとんど食べてしまった。実は野菜は好きではないのだが、素材が良く、すごく美味しいと感じた。これがまずよかったところ。そして都会に比べ、静かで、のどかで、良い所だと感じた。私は人ごみが好きではないので。

私は、スノーボードをやるので、電車やツアーバスで何時間も掛けて来るのだが、そういう場所が近くにあるのも魅力的。

松野さんの弟から、自給自足で生活する習慣があり、温泉が近くにあり、昔は虫取りや川遊びをしたと聞き、住んでみたら純粋に楽しそうな所だと感じた。

ただ、移動するには必ず車を使わなければならないところに不便を感じる。レンタカーも余らないと聞いたので、学生は車を持っていないので、自分達が旅行で来るとしたら、レンタカーを利用できたら便利が良いと感じた。

目的地に行くための移動手段が足りないと感じたので、駅前に電動自転車のレンタルがあれば、それで市内を移動できるのでは思った。

携帯の電波が入らないというのは困る。あと、遊ぶところが少ないと思う。川遊びができると思っていたが、「川に入ることはできるけど、遊ぶところはない。」と聞き、川遊びができる場所があれば楽しいと思った。

子どもを連れて遊ぶところが無いと聞いたが、私の知っているアスレチックがない公園は、ロープや木を並べ、アスレチック広場にして、子どもを遊ばせることができる日がある公園がある。そういう工夫をしたら、ただの公園でも、子どもが楽しむことができるのではと思う。

大学生になってから、美味しいモノを食べに行きたいと感じるようになった。子どもや若い人は、遊ぶことが一番好きだと思うので、冬場はスキー場があれば人が遊びに来るのかも知れないが、お金がかかることを無責任に私が言うてはいけないが、夏場、バーベキューができたり、遊歩道を整備し散策して遊べるようなところがあれば良いと個人的に感じた。

今後、人を集める目的が、観光なのか、定住なのか、ロングステイなのか、私にはわかりませんが、個人的には農業体験が一番楽しかったので、ちょっと長居する観光旅行や遊びに目をつけてみた。自分達で考えたのは、薪割り体験、草刈り体験や色々なことが体験できるエリアを作り、そのエリア若しくは少し離れたところに宿泊できるコテージを作り、一週間程度滞在できる環境を整え、そのエリアで地元農家と協力し自給自足の生活が体験できるようになれば、私は、遊びに来るかもしれない。

例えば、薪割りをしてポイントを溜めると、そのポイントで他の人が作った野菜と交換できて、食べられるとか。そういう場所にアスレチックと宿泊施設があり、農業体験もできるとなれば、将来、子どもができた時に、中野市に連れてくるかもしれない。

農地にライブカメラを設置し、大学で、自分たちが植えた作物の生育具合の映像を確認しながら授業することができ、そして年に1回や2回、現地を訪れ実際に農業体験ができたなら、大学生はこの土地に愛着を持つようになるのではないか。

私は2日滞在しただけだが、親近感を感じるようになった。例えば、授業で中野市に来るような機会があれば、中野市のことをわかってくれるし、今の学生はSNSを利用して「中野に行ってきたよ」と情報を流し、そこから「中野ってどこ?」「今度行ってみようかな」という話に繋がってくると思う。

#### コーディネーター

中野を知らない東京の若者が中野に来て、感じたことを率直に話してもらったが、何か質問や意見があれば、皆さんで話をしてもらいたい。

私が今日、一緒に歩いていて、やはり若者の考えだなと感じたこと。この二人は、今日、見学場所のお寺の鐘を勝手に鳴らして、怒られた。してはいけないことは、してはいけないのだが、若い人は、普段自分たちの周りにないもの、知らないものに、凄く関心を示す。若い人は考えていることを、実際の行動に移したいと考えていると思った。

若者の好奇心と、それを実行に移す力を取り込んで、その中に楽しいこと、面白いことがあれば、若者は色々なことを勝手に考え、自分達で取り組んで行くと感じた。

2日間、色々なところを案内してもらったが、やはり人が介在して色々なことを教えて貰えるということがあると、まちへの理解、関心の高さが全然違う。パンフレットやガイドブックを見ただけでは伝わってこないことがたくさんあり、伝わらないことを、どうフォローしていくか。案内する人が必ず介在するということが不可能であるが、関心の持たせ方、親近感の持たせ方、わかりやすさを工夫することによって、訪れた人の、後の行動

や関心の高さが変わってくると思う。

市長

農業体験でポイントを貰えるという話は、そういうポイントでモノが交換できるエリアを作るということか。

学生

モンスターハンターというゲームをイメージしている。温泉、武器屋、色々な店が点々としていて、プレイヤーはモンスターを捕まえると、お金が貰え、そのお金で武器を買うというゲームである。

実際に野菜など自給自足でお金を使わずに生活している方をみて、現金でやり取りすることは抵抗があるので、ポイントを使い自給自足を体験できるテーマパークのようなものがあれば面白いと感じた。

学生

キッザニアのようなところかな。

学生

そういうイメージ。そのエリアの中でポイントが溜まって、次に来た時にそのポイントを使えたり、来るたびにレベルが上がっていくようなシステムがあれば、リピーターが増えるのではないかと思う。得られるものが現金だったら、エリアの中で得ても外で使えてしまうが、お金に代わるモノを稼ぎ、それをエリアの中だけで使う形ができれば。

会員

キッザニアのまち版で、まちで何かを手伝ったら、現金とは違う報酬を貰って、それが溜まったら、何かと交換できるという感じですか。

学生

中野市に何もなかったから、逆に何でもできると思った。

会員

実際、ボランティアをするとポイントが溜まるということをしている例がどこかのまちであったと思う。

コーディネーター

少し前にあった、地域通貨と言う概念ですね。

会員

ぶどうを栽培しているのですが、忙しい時期が決まっていて、その時期になると、他の農家も人手が足りなくて、人が欲しいという状況がある。もちろん、産業公社に頼んで派遣して貰っているが、それでも人を確保できない時がある。

もし、若い人が、忙しい時期に手伝いに来て、その時にポイントを貰え、また来て貰えれば、農家としてもありがたい。

会員

忙しい時期に、人が代わる代わる来られると、その都度、作業を説明しなければならず、大変。一度来て技術を身につけた人が、必要な時期に来て手伝って貰えるとしたら、とても助かる。

会員

実際にやる農作業をビデオ撮影し、それを事前にネットで発信しておき、手伝いに来てくれる人が前もってそれを見るだけでも、違うと思う。

会員

継続的に手伝いに来てもらうために、次の年も来てくれたら、ポイントが2倍になるとかいいのかも。

会員

継続して来てくれるには、いいですね。

会員

専門用語になりますが、ぶどうの摘粒とか、技術の高い農作業は50ポイント、リンゴの摘果や、少し教えればできる作業は10ポイントとかにすればいい。

学生

グループで別れてやると、勝手に競争が始まって楽しめると思う。

会員

今だったら、秋映の葉摘みという作業があるんですけど、その作業で、リンゴを1個落としたらマイナス10ポイントにするとか。

市長

インターネットに、作業内容のビデオをアップして、事前にそれを見て勉強して貰って、ここに来た時に、実地試験をやるとか。10年やるとゴールドカードになって、何かメリットがあるなど、レベルアップの要素を入れると次に繋がるかもしれない。

事務局

長野電鉄でモンハンとコラボして、ラッピング電車を運行していた。

学生

そういうのがあれば、若者が食いついてくる。

会員

都会の若者たちは、やったことのない自然と触れ合う作業をやってみたいと思うのか。

学生

少なくとも、我々はそう思う。都会で生活しているから、そういう自然と接する新鮮な体験に興味を持つ。

学生

ただ、松野さんが、一年中休みもなく働いているという話を聞き、私たちも実際、それが毎日となれば、自然と接することが楽しいと言う気持ちにはならないと思う。

会員

体験し興味を持って貰い、来て貰えれば嬉しい。

学生

短期集中的に手伝いに来るとか。

コーディネーター

忙しい時期は9月、10月ですか。

会員

作物によるが、リンゴだと5月から花摘みが始まり、6月、7月。ハウス栽培している家は一年中忙しい。

会員

中野は果樹以外にも、キノコをやっている家が多く、キノコは冬のメインの仕事である

から、夏場は果樹、冬はキノコとなれば、年間、何かしらの農業体験ができる。

学生

キノコを買う人が、栽培している現場を体験すれば、そのキノコの値段に納得すると思う。ぼたんこしょうの値段が 100 円というのを見てびっくりした。

会員

こういう田舎にくと、ゆったりした気持ちにはなるのですか。

学生

なります。今朝は、清々しかった。

会員

この辺りでも、農家でない家の子は、農業を体験したことがないと思う。学校で畑をしたり、稲刈りを授業でやるが、授業以外で農作業をしたことがない子どもが多い。

会員

学生が仕事を体験するとなるとアルバイトになると思うが、他の仕事に興味があったとしても、アルバイトをやめる訳にいかないから、他の仕事を体験することができないが、中野市で他の仕事が体験できれば楽しいと思いますか。

学生

もちろんそう思います。やはりやってみなければわからないことが多いので、中野市に来れば、色々な仕事が体験できるとなれば、来ると思います。それに何か付加価値を付ければ、人は来ると思います。

会員

自分は農家だけど、この場に、色々な仕事に携わる人が集まっているから、その人たちの仕事も体験できれば。

会員

今いる大学の学生で、今回二人が体験した内容を体験した内容をやるとしたら、何割ぐらいの人が、共感してくれると思いますか。

学生

かなり少ないと思う。2割程度ではないか。案内によるけど、1割になるかも。

会員

ひとつの大学で1割であれば、大学はたくさんあるから、1割でもかなりの人数になる。

会員

もっと自分は、低いと思った。

学生

スノーボードで、竜王に行ったのも、周りの人達が、フェイスブックやツイッターで、「竜王に行ってきた」と書いてあって、「竜王ってなんだ」ってところから、調べて、竜王に行くことになった。

コーディネーター

大学で学生と接している感覚で話をすると、先ほどの2割という話は、もう少し低いかもかもしれない。もう少しうまく乗せてあげないと、そういう数字にはならないように思う。先ほどの、農業体験の話にしても、つまらなそうにしている人はいる。

会員

青年部で、保育園児や小学生と農業体験をやっても同じようなことを感じる。小学生でもそうなので、年を取ると、もっと乗せないとやってくれないのではないかと思うから、2割もいるというのは意外だった。

学生

乗せ方によるとと思いますが、我々が中野市で体験したことが楽しかったから、今度一緒に行ってみようよと話をすれば2割ぐらいの人が乗ってくるのではないかと思う。インターネットなどで見て、「行ってみようか」と思うのは難しいと思う。だから、名前が知られている、モンスターハンターのようなゲーム性のある体験ができるのであればと思った。

会員

せっかくだから、遊休荒廃地でモノを作り、体験して貰えばいい。それは一長一短があり、すぐ作物ができるわけではない。最初の種まきは体験して貰っても、次、来るまでの間、誰かが管理しなければならない。自分の仕事をしつつ、その農地を管理するのも中々大変なことであるが、もしできれば、遊休荒廃地の解消にも繋がる。

学生

ひとつの大学だと休みも限定されているので、年に1回か2回しか来ることができない



と思うが、ひとつの場所を複数の大学、高校、中学でローテーションして行けば、月に1回でも12校あれば、年間を通して体験できる。ただその間は、こちらの誰かに管理してもらうことになるが。

会員

地元を巻き込めばいいですね。遠くから交通費を掛けて来るのではなく、大学は休みの時にくるけど、日頃は、地元の小学生や中学生に作物を管理して貰うとか。

会員

地元のこどもが全員、農作業を体験したことある訳じゃないからいいかもしれない。

学生

その体験作業を通じて、地元の人と交流が深まり、友達ができ、また遊びに来いよと言われたら、遊びに来ると思う。自分も松野さんにお世話になり、そういう気持ちになった。仕掛けができて、地元の人も、東京の人がまた来ることを嬉しく思ってくれば、相乗効果が生まれてくると思う。

会員

今聞いていたら、モノじゃなく、人との繋がりを作ることで、来て貰えるようになるのかも知れない。

学生

学校を巻き込んで、授業のカリキュラムにいれるとか。

市長

遊休荒廃地のシェアリングとか、共同アグリとか、コラボしましょうと色々な大学に呼び掛けて、東京の人同士も交流できるし、地元でも交流できるし、地元で管理するグループを作って、それを一括りにして、みんなでシェアリングする。そしてライブカメラを使って、ネットで情報を流せばいいかも。

会員

作業の後、バーベキューとかやったりしてもいい。自分たちで作ったモノを食べる機会があると楽しい。

学生

達成感があれば、また来年もやろうという気持ちに繋がるのではないかな。

コーディネーター

他の大学生が来ている事例はありますか。

会員

J Aながのと J A中野市が受け入れて、去年武蔵野大学の一年生が、農家へ農業体験をしに来ている。三泊四日で、代わる代わる体験し、述べ100人近くと聞いている。空き家を宿泊場所とし、自分たちで食事の準備をしながら滞在していた。

市長

現場で経験したことは、勉強になる。それだけで知識になる。

コーディネーター

講義だけでなく、企業に行きそこで話を聞く、工場を見るということを経ませれば、大学の教育の一環としても成果はあると思う。講義で話を聞くより、現場で聞く話は直に伝わってくるものがある。

学生

学生が電車で来て、そこから何らかの移動手段がなければ、遊びにくくことは難しいと思う。

東北に行った時、自分が行ったところだけかもしれないけど、駅にレンタカーがあった。別の駅にレンタカーを乗り捨てることもできるようだ。

会員

15分単位で借りられるレンタカーがあると聞いた。そういうレンタカーステーションみたいなのが、色々あれば、そこで乗り捨てることもできるし、便利がいいかも知れない。

(それぞれ個々に話始めたため、聞き取れない)

※平泉に行った時、四輪バギーのレンタルがあった。そういうのも楽しいと思う。多少高くても、普段乗れないものに乗れると楽しい。

※乗用の草刈り機はゴーカートのようなから、学生に乗用草刈り機を体験させれば喜ぶのではないか。

※色々なものが点在していて、移動手段がないのなら、集めるとか、集めることが無理ならば、免許を持たない人の移動手段を確保する必要がある。 など

会員

話が戻るのですが、農業体験以外で印象に残ったのは何ですか。

学生

キノコ工場で聞いた話と、りんごパイ、そして、ふるさと橋の鉄琴は本当に楽しかった。

学生

僕も同じですけど、鉄琴が楽しかった。あと、一本木公園で作業していた人との出会いが楽しかった。

会員

一本木公園のイメージはどうでしたか。

学生

もう少し遊具があれば。公園と聞いていたから、遊べる施設があると思ったが、なかった。オーナーバラ園の制度は良くできていると思い感心した。

無料の公園なのに、有料バラ園並に管理されていると思った。

会員

中野市を回ってみて、もう一度、中野市を訪れたいと思いますか。

学生

松野さん宅に宿泊させてもらったので、そこにもう一度行きたいと思う。

会員

他にどこかまた見たいという場所はないということですか。正直でいいですよ。

学生

特にはないですね。

会員

キノコと、ぼたんこしょうと、アップルパイだったら、どれを送って貰ったら嬉しいか。

学生

甘いものが好きだからアップルパイですが、ぼたんこしょうなめたけは本当に美味しいと思った。買って帰ります。

会員

二人の話を知ると、どこの場所に行った体験より、自分のしたことのないことを体験ができ、そこで人と触れ合えたことが一番印象に残っている感じがする。

会員

田舎でじっくり人と会話するのは新鮮でしたか。

学生

そうですね。人と人が近くに感じた。

学生

イメージとしては、海外でのホームステイをしている感じ。

学生

僕は、「田舎に泊まろう！」というテレビ番組のイメージで、友達にも「田舎に泊まろう」みたいなことをしているとSNSで伝えた。

会員

松野さんの家に泊まらずにいたら、松野さんの家の印象はそんなに大きくならなかったか。

学生

松野さんの家で農業体験をして、終わったら別の場所で泊まるだけでは、これほど印象には残らなかったと思う。泊まったことが大きい。食事の準備や片付けを一緒にやったりしたことが新鮮だった。

会員

今回はそれができたけど、それを受け入れてくれる家がどれほどあるか。

会員

こちらに来ると、地元の食べ物を食べてみたいと思うか。

学生

「やたら」を食べたけど、美味しかった。

会員

田舎に行くが決まった時、農業体験以外に何をしたいと思ったか。

学生

山遊び、川遊びがしたかった。魚を取ったり、岩から飛び込んだりしたかった。

学生

そういう遊びをしに田舎に行くという感じがある。

会員

それは、こっちが何かするとかではなく、場所があればできることですね。

学生

できれば、地元の人に、遊び場所を教えて貰って、そこで遊ぶことができれば楽しい。

学生

アスレチックがあれば楽しいと思う。縄が張ってあるだけでもいい。球技とかはできる人できない人がいるけど、そういう山遊びや川遊びは誰でもできる。

今後の日程について説明      8時05分終了